

佐倉の祭りや歴史について歴博の資料を使いながら学んでいこう

佐倉市立臼井小学校 多久島司邦

1 実施学年及び教科・領域

第4学年 社会科

2 学習のねらいと博物館の活用と関連について

(1) 単元名 残したいもの 伝えたいもの

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、県内の伝統や文化については、その歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、また、地域の人々の生活を向上させてきた先人の働きについては、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べ年表にまとめたりすることを通して、伝統や文化、先人の働きに込められた人々の願いや努力について具体的に考える単元である。

伝統行事に関する学習は3年から4年へと移り、それにより、都道府県内の行事をバランスよく取り上げることが求められるようになった。そのため、教科書では、愛媛県内の異なる地域の年中行事や文化財を取り上げている。実際の学習では、自分たちが住む都道府県内のそれを取り上げることが求められる。

学習指導要領の内容としては、(4)の(ア)県内の文化財や年中行事は、地域の受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。(ウ)見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。イ(ア)歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。が関連している。

②単元の目標

地域の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経緯、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで、地域の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追及・解決しようとする態度や、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

(3) 博物館との関連(実践の概要を含める)

①活用方法 非来館

②活用資料

第2展示室－民衆の生活と文化 「芸能と職人 中世の芸能」の展示

現在の佐倉の秋祭りやお囃子について説明し、歴博の資料の室町時代での祭りの様子を紹介し、昔からお祭りやお囃子があるということをつえさせるため、活用する。

第3展示室—都市の時代 「錦絵にみる江戸の文化」の展示

なぜ山王まつりで使われていた山車が佐倉に来たのかを資料を使って説明する。江戸と佐倉が親密な関係があったことを認識させる手立てとする。

第4展示室—おそれと祈り 「夏の祭礼と風流」「年替わりと稲の祭り」の展示

使用する資料は、宇出津あばれ祭で石川県能登町の宇出津で行われる資料である。キリコが乱舞し神輿を海や川・松明のなかに投げこむ、祭神に荒々しく働きかける祭りである。神輿は実際に祭りで用いられたものを展示している。子ども達が想像している祭りのイメージとはかけはなれた行事であるので、地元の祭りと比較しながら全国にはいろいろな願いでお祭りが行われてきたことや地域の人々がどのように受け継いできたのかについて、理解を促すことに活用する。

また、沖縄県八重山地方の祭りについての資料も活用する。中国やベトナムから伝わった祭りのため、日本の祭りとは少し違った雰囲気である。弥勒菩薩の神で沖縄の方言ではミリクと呼んでいる。このような独特の祭りがあることも理解させ、祭りにもいろいろな催し方があることを認識させる手立てとする。

(4) 指導観

4年2組の児童は、男子9名女子12名の21名学級である。どの授業に対しても前向きに真剣に取り組んでいる。発表もよくし、自分の考えを積極的に友達に伝えようとする児童も多い。社会科が好きと感じている児童は6割しかいない。本単元の学習内容についても、地域を扱うものでありながら、身近なものとして捉えている児童は少なく、興味関心の程度もあまり高くない。そこで、本単元では、歴史民俗博物館の古代の祭りや全国の祭りの様子の資料を活用したり、佐倉囃子の太鼓を実際に体験させたりして、地域の伝統的な建物、芸能、祭り等に関する興味をもたせていきたい。また佐倉の秋祭りに関しては、本校の学区で実施される祭りであり、児童の認知度も高い。しかしながら、いつからはじまったのか、山車を曳くことにはどのような意義があるのかといったことは、あまり意識できていない。このことについても、歴博の展示の中に、佐倉市の秋祭りと関連する資料があるので、それを活用し、児童の身近な秋祭りへの認識をアップデートさせていきたい。この単元を通して、願いや思いによって様々なお祭りがあり、伝統文化や伝統芸能について理解させたい。

3 指導計画(9時間扱い)

過程	時数	主な学習活動・内容	評価基準と評価方法
つかむ	①	○佐倉市の伝統的な史跡、建物、行事について話し合う。 ○学習問題をつくり、学習計画を立てる。	[思判表①] 発言内容やノートの記事内容から、「地域にある古くから残るものについての現在にいたるまでの経過に着目して、問いを見出しているか」を評価する。

調 べ る		<p>【佐倉学】 ※佐倉の秋祭り、武家屋敷、ハリス像、佐倉囃子、佐倉城、臼井城、麻賀多神社等を取り上げる。</p>	<p>[態度①] 発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っているか」を評価する。</p>
	②③	<p>○佐倉市の伝統的な建物について調べる。</p> <p>○調べてわかったことをもとに、考えたことを話し合う。</p> <p>【佐倉学】 ※佐倉城、臼井城、武家屋敷、古い建物について取り上げる。</p>	<p>[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地域の文化財やそれを保存する人々の様子を理解しているか」を評価する。</p>
	④⑤	<p>○佐倉市の伝統的な芸能について調べる。</p> <p>○写真や資料で確認しながら、わかったことをもとに、考えたことを話し合う。</p> <p>【歴博の活用】 ☆室町時代に使用していたお面、神輿、お囃子、獅子舞の様子を紹介する。</p> <p>【佐倉学】 ※実際に楽器に触れ、佐倉囃子を体験する。囃子について興味を持たせる。</p>	<p>[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、文化財やそれを守り伝える人々の様子を理解しているか」を評価する。</p>
	⑥⑦	<p>○佐倉市の祭りについて調べる。</p> <p>○写真や資料を確認しながら、調べてわかったことをもとに、考えたことを話し合う。</p> <p>【歴博の活用】 ☆山王祭りの資料を見せ、佐倉の秋</p>	<p>[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地域の年中行事やそれを守り伝える人々の様子を理解しているか」を評価する。</p>

		<p>祭りとの親密な関係について理解させる。</p> <p>☆あばれ祭りや八重山地方の祭りについて紹介し、祭りの違いについて理解させる。</p> <p>【佐倉学】</p> <p>※佐倉の秋祭りや麻賀多神社について資料やインターネットで調べる。歴博の祭りの様子を見せ、いろいろな祭りがあることを知らせる。</p>	
確 か め る	⑧	<p>○これまでに調べたことを発表して、新聞にまとめる。</p> <p>○つくった新聞を見て、それぞれに共通することや違う点など、気づいたことを話し合う。</p>	<p>[知技②]</p> <p>ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを年表や文などにまとめ、県内の文化財や年中行事に込められた人々の努力や願いについて理解しているか」を評価する。</p>
広 げ る	⑨	<p>○学習してきたことを生かして、地域に伝わる古くからあるものをどのように保存・継承していくか、自分達にできることを考える。</p> <p>○調べたこと、考えたことをプレゼンテーションソフトにまとめ、発表する。</p>	<p>[態度②]</p> <p>発言内容や作品から、「地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。</p> <p>[思判表②]</p> <p>発言や作品から「文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現しているか」を評価する。</p>

4 実践の概要

この項では、主に歴博の資料・展示を活用した時間を中心として記載する。

【第1時】

佐倉市に古くから残るものについて考えさせ、発表させていった。佐倉の秋祭り、武家屋敷、ハリス像、佐倉囃子、佐倉城、臼井城、麻賀多神社等が挙げられた。これらについて調べていくことを確認し、単元の学習の見通しをもたせた。

【第2・3時】

古くから残る佐倉市の伝統的な建物(佐倉城、臼井城、武家屋敷等)について紹介し、調べる活動を進めた。

【第4・5時】

4・5時限では、古くから残る佐倉市の伝統芸能(佐倉囃子)について紹介し、実際にお囃子体験をさせた。更に歴博の資料(第2展示室の⑤民衆の生活と文化)を使い、室町時代の祭りの様子を紹介し、使用していた面や鉦、神輿や獅子舞、お囃子の様子を見せ、昔との違いや受け継がれているものについて理解させた。

第2展示室－民衆の生活と文化



〈第3・4時の児童の反応〉

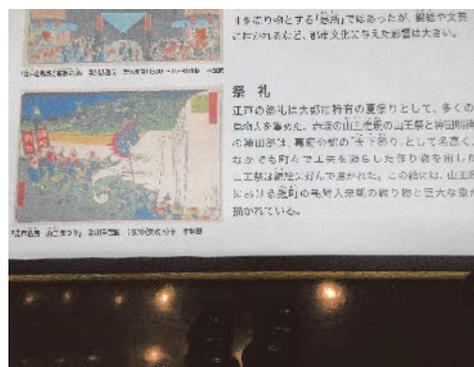
- ・ 凄く昔からあるお祭りやお囃子があるということを知って驚いた。
- ・ 今は座って演奏していることが多いが、昔は立って演奏している。
- ・ 神輿と獅子舞は、今とあまり変わっていない。受け継がれていることがわかった。
- ・ すり鉢のたたく物が今とは違った。

お祭りやお囃子について、今現在の姿も馴染み深いものとは限らず、なかなか捉えにくい事柄ではあるが、上記のように、歴博の展示物と、現在のお祭りやお囃子を比較させたことにより、昔から受け継がれていること、長い年月の中で変化もしていることなどを認識できている児童が多かった。

【第6・7時】

6・7時限では、昔から続く佐倉の秋祭りについて紹介した。麻賀多神社の由来、麻賀多神社の神輿、お神酒所の意味について説明し理解させた。更に深く学ばせるために、歴博の資料(第3展示室④都市の時代)山王祭りの資料を見せ、佐倉の山車が江戸から来ていることも紹介した。また、(第4展示室④おそれと祈り)あばれ祭りやミクリの祭りを紹介し、地域によって祭りの意味や催し方が違うことを理解させた。

第3展示室—都市の時代



第4展示室—おそれと祈り



〈第6・7時の児童の反応〉

- ・東京(江戸)の祭りで使用していた山車が、佐倉にあるということに驚いた。東京と佐倉に繋がりがあることがわかった。
- ・神輿を敢えて海に落としたり、火にあぶったりして壊す祭りがあるなんて驚いた。
- ・ミリクのお面は真っ白で獅子の被り物は黒くて今まで見たことがなかった。

上記のように、佐倉市の祭りが、東京(江戸)の祭りに関連していること、祭りには様々な形態、願い、様式があることなどについて、認識できている様子が伺える。歴博の展示物を活用し、祭りというものを、多面的に捉えさせることができたからだと考えられる。

【第8時】

今まで学んだことを広げるため自分でテーマを決め、新聞にまとめさせた。他の市町村の祭り・建造物について7名、祭り・建造物の意義について12名、祭り建造物の歴史について10名、佐倉市の関する偉人について2名作成していた。

【第9時】

今まで学んだことや、課題について考えていることなどについてプレゼンテーションソフトを活用して発表し、紹介し合った。

5 成果と課題

- 歴博の展示物を活用することで歴史のある町佐倉が、なぜ古くから伝統が受け継がれてきているのかを学習することで理解することができた。

- お囃子がなぜあるのか、また実際に演奏させることで伝統芸能の良さや大切さ、楽しさなど気付かせることができた。

- 歴博の資料を使うことで、他の祭りや芸能に関心をもつことができ、より多面的にとらえることができた。

- 教科書から少しはなれてしまう内容もあったので、時間内に様々なことを取り入れたり繋げたりすることが難しかった。

- 感染症対策によって来館していろいろな資料を見せることができなかった。

- 他にも活用できる展示物がないか更に検討したい。